

部屋

白いレースのカーテン越しに
薄い日の光が射し込んでいます

葉の上を滑り落ちてゆくようなシューベルトのパスセージが
その光を胸を膨らませて吸い込んでいます

ああ、私を取り囲む数々の瑣末な事柄
それらがそのカーテンの外からそっと覗き込んでいます

私にはどうしても分からないのです
何が私の肩を押さえつけて身動きできなくしているのか

美しいということはどういうことなのでしょう
孤独を感じることはどのようなことなのでしょう

返ってくるのは、単なる言語学的な答えか
もしくは心理学論的分析結果・・・

誰も教えてくれないのです
まるで現在を守ることが当たり前であるかのように

いいえ、きっと誰も知らないのでしょう
豊かなモノに囲まれてきたあなた方には

昨日とまるで変わらぬ今日
今日とまるで変わらぬとしか描けぬ未来

明日を変えることに私は飢えている
その飢えを満たす方法などなんでもよい

窓から覗き見するものたちよ
気をつけるがいい

(2004.9.17)